

B-2

桂枝茯苓丸による糖尿病性腎症の進展抑制作用

○中川孝子¹⁾、横澤隆子¹⁾、後藤博三²⁾、大和田滋³⁾、服部征雄¹⁾、柴原直利²⁾、
寺澤捷年⁴⁾

富山医科薬科大学和漢薬研究所・薬物代謝工学部門¹⁾、同・漢方診断学部門²⁾、
聖マリアンナ医科大学・腎臓内科³⁾、富山医科薬科大学医学部・和漢診療学講座⁴⁾

【目的】我々は糖尿病性腎症に対する漢方方剤の作用をin vitro, in vivoの実験系から検討し、桂枝茯苓丸の有用性について報告してきた。本研究では、自然発症糖尿病ラットに桂枝茯苓丸を長期間投与し、腎症の進展が抑制されるか否かについて検討した。

【方法】WBN/Kobラット(♂、45週齢)を血糖値により3群(普通食、1%桂枝茯苓丸含有食、3%桂枝茯苓丸含有食)に分け、30週間飼育した。投与期間中、血糖値と体重は2週間毎、尿蛋白は15、30週目に測定した。投与期間終了後、血中Cr, AGEs, TBA-RSと腎組織中のAGEs, TBA-RS, SOD活性を測定した。腎の病理組織学的変化は光学顕微鏡で観察した。

【結果】実験期間中、WBN/Kob ラットの血糖値は250 mg/dlから700 mg/dl前後にまで上昇し、体重は約70g減少したが、桂枝茯苓丸投与による変化は見られなかった。15週目の尿蛋白排泄量は10 mg/day前後と、3群間で有意差を認めなかったが、30週目では非投与群で約2倍増加し、腎機能の低下が認められ、桂枝茯苓丸投与群では用量依存的に尿蛋白排泄量の増加を抑制していた。血中Crレベルも低下していたが、血中AGEsレベルは3群間で変化しなかった。しかし、腎組織中のAGEsは桂枝茯苓丸投与群で有意に低下していた。TBA-RSは血中、腎組織中いずれにおいても有意に低下し、腎組織中のSOD活性は有意に上昇していた。また糸球体硬化、びまん性病変も桂枝茯苓丸投与群で改善作用が認められた。

【結論】桂枝茯苓丸が糖尿病性腎症の進展を抑制する知見が得られた。